

管内の百名山「浅間山」



北軽井沢から望む春の浅間山



北軽井沢から望む冬の浅間山

浅間山は、登れない百名山となっており、車坂峠から登る外輪山の最高峰、黒斑山（2,404m）の登頂をもって、浅間山登頂とするのが一般的です。

この黒斑山へは、中コースと表コースがあります。なかでも中コースは、天然カラマツの巨木林の中を通るのでお勧めです。長年の風雪に耐えた独特の樹形を見せるこの天然カラマツ林は、当署が黒斑山天然カラマツ植物群落保護林として保護しているものです。

美しい自然を有する一方、世界有数の活火山でもある浅間山は、古来より日本人が感じてきたであろう自然への畏敬の念を再認識させてくれる山です。

「長閑さや浅間のけふり昼の月」（一茶）
この小林一茶の歌のように一見穏やかに見える浅間山（2,568m）は、群馬県の嬬恋村、長野県の軽井沢町と御代田町の境にそびえ、現実には気象庁の火山活動度分類でランクAに指定されている活火山で、噴火すると首都圏をはじめ関東一円に甚大な被害を与えるため、日本の火山の中でも特に注意深く監視されています。

記録に残る噴火で最も被害の激しかったのは、天明3年（1783年）の大噴火で、死者1,500人以上、倒壊家屋1,000棟以上となる大災害でした。観光地として有名な鬼押出は、この時の溶岩流の名残です。

浅間山は、現在、噴火警戒レベル2に指定されており、火口周辺への立ち入りが規制されています。今年の2月、3月には噴火活動が観察され、レベル3に引き上げられたこともありました。このような現状から吾妻森林管理署は「浅間山火山防災対策連絡会議」等の構成機関として関係省庁、自治体等と協力し防災対策に参画しています。



黒斑山の天然カラマツ